

青山会 会報六号

INDEX

・会長挨拶	1	・編集後記・連絡先	13
・学部長より	3		
・OBより	5		
・支部会だより	10		



山口県獣医専門学校卒業生の皆様、 農学部獣医学科同窓生の皆様、 青山会会員の皆様

青山会会長 深町 輝康 (V16)

獣医専卒業生、農学部獣医学科卒業生、青山会の皆様には益々ご清栄のこととお慶びを申し上げます。

昨年（2024）10月、獣医学部獣医学科は創立80周年を迎え、記念行事、式典、祝賀会を成功裏に終えることが出来ました。先輩諸兄姉、在学生、学部教職員の皆様、ご父兄はじめ各界から心温まるご援助、ご支援を賜りありがとうございました。皆様の母校に対する想いを深く感じました。心から御礼申し上げます。また式典では、皆様ご多忙のなか各界から多数ご参列頂き、過分なお言葉を賜り、ありがとうございました。皆様のご支援を糧に獣医学部は精進を重ね、さらに発展すると確信しております。

80周年は慶賀すべき通過点であります。20年後の2044年には記念すべき創立100周年を迎えます。皆様と共に、100周年の盛大なお祝いを迎えたいと心待

ちにしております。

本学科修学期間中、私たち同窓生にはたくさんの出会いがありました。同期生、先輩後輩、又他学部 of 学生、そして教職員の方々との僥倖を、私たちは「縁尋機妙」の精神で大切にして参りました。そして多逢聖因（よい人々との交わりは、よい結果に恵まれる）となり、その後の皆様の充実した人生に繋がった確信しています。

獣医学は大変幅の広い、奥深い学問です。V27卒、山手丈至先生（大阪府立大名誉教授）は、本校創立80年記念誌に「獣医学」について、“Beyond Biology、生物学から獣医学へ”、そのプロセスにこそ、生命を探求する醍醐味がある*1と、述べられています。すなわち、“高校の「生物」では、動物の特性と機能、そして恒常性について学ぶ。生物で習得した知識の延長上に、病の発症メカニズムを理解・解明するヒントがあり、それに基づいて動物の疾病の「診断・治療・予防」を確立する学術分野としての獣医学がある。ヒトや動物の福祉と平和こそが、獣医学がなすべき究極的な目標である”と述べられています。膨大な積み重ねの獣医学を専攻しました私たちは、獣医学が成すべき究極的な目標に向かって、日々精進しなければならないと感じています。

日本には、まだまだ寄付の文化が育っていないと感じます。母校の充実発展には、卒業生や関係企業の皆様の母校への支援(寄付)が是非とも必要です。今年のノーベルは医学生理学賞に、免疫学「制御性T細胞」の研究で大阪大特任教授坂口志文先生、ノーベル化学賞に「多孔性材料」の研究で、北川進・京都大特別教授が選ばれました。日本国民として誇らしい慶事です。

山口大学獣医学部同窓生からノーベル医学生理学賞の受賞者が生まれることを切に願っています。

2

2025年、秋

参照

*1 山口大学獣医学科創立 80 周年記念誌

*2

(https://www.bank-daiwa.co.jp/column/articles/2025/2025_540.html)

*3

(<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400269417.pdf>)

*4

(https://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/11zaimushohyou/pdf/r06/r06_zaimusyohyou.pdf)

*5 (文科省ホームページ： トップ > 教育 > 大学・大学院、専門教育 > 国立大学等の法人化について > 国立大学の法人化をめぐる 10 の疑問にお答えします！ > Q1 なぜ国立大学を法人化することとしたのですか。)

*6

<https://diamond.jp/articles/-/364957#:~:text=2004%E5%B9%B4%E3%81%AE%E6%B3%95%E4%BA%BA%E5%8C%96,%E3%81%A8%E6%8C%87%E6%91%98%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82>



令和6年度

共同獣医学部の近況報告

共同獣医学部長 度会 雅久

山口大学共同獣医学部同窓会・青山会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

会員の方々には、日頃から本学部の教育研究にご理解とご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。簡単ではございますが、本学部の近況についてご報告させていただきます。

共同獣医学部の主な取り組みとしては、令和2年度に採択され、令和6年度が最終年度となる文部科学省「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～」において、ナイロビ大学と本学との間で学生交流を行いました。ナイロビ大学からは獣医学部学生4名と教員1名、人文社会科学部の学生1名と教員1名の計7名を受け入れ、本学部に加え国際総合科学部にも交流が拡大しました。ナイロビ大学への派遣は、本学部学生6名、医学部学生1名、岐阜大学応用生物科学部学生1名の計8名となり、他大学への波及も認められました。両大学の学生が混じって英語でコミュニケーションを取りながら実習を行いますので、双方の学生にとってはグローバルな感覚を身に着けるきっかけとなりました。プログラムが終了しても受入・派遣を継続する予定です。

インドネシアの獣医系大学と山口大学共同獣医学部・共同獣医学研究科および日本の獣医系大学の教育・研究交流を図るため、2017年から始まったAJIV(Association of Japan - Indonesia Veterinary

Education)シンポジウムも8回目となりました。主催大学であるインドネシア Syiah Kuala University において対面形式で2024年7月6日(土)に開催されました。本シンポジウムは、日本とインドネシア双方の教員の共同研究関係を確立して発展させること、インドネシアにおける次世代の教員候補者が、日本において学位取得するための協力関係を築くことを目的として設置されているため、Deans meetingでは、学生交換留学プログラム、相互教育システム構築などについて話し合わせ、今後も協力関係を進展させていくことが確認されました。その後、ガジヤマダ大学のTeguh 獣医学部長とAgung 副学部長が来学され、学生の相互交流を行うことになりました。

山口大学では、第4期中期目標・中期計画における「地域産業の生産性向上と雇用の創出等を牽引するため、産学公で地域ビジョンと課題について議論する場を新設し、抽出した地域課題を解決することを目的としたトップダウン型の産学公連携研究拠点を創設する」という計画に基づき、地域貢献・学術貢献・大型外部資金獲得・社会実装といった幅広い出口戦略を目指すことのできる新たな「研究拠点」を構築していくことを目標としています。本学部教員が中心となって推進してきた「One Welfare 国際研究センター」が、これまでの活動実績が認められ、4つ目のトップダウン型の産学公連携研究拠点として新たに認定されました。キックオフシンポジウムとして「One Welfare と法獣医学：人と動物の健康を守る」が、山口大学吉田キャンパス獣医学研究科棟にて開催されました。会場には大学、官公庁、一般市民の方々から約80名の参加がありました。シンポジウムでは、学内外から3名の講師の皆様それぞれの立場から、法獣医学に関する最新の知見についてご講演いただきました。講演後の質疑応答においても活発な意見交換があり、大変有意義な学术交流の場となりました。

田浦保穂教授(特命)が全国農業共済協会から感謝状を贈呈されました。この賞は、長年にわたって、獣医師の育成に勤しみ、NOSAI 家畜診療所との連携も図りながら山口県での畜産振興に携わり、多大なる貢献が認められたことから功労者として表彰されたものです。また、田浦教授(特命)は、山口県動物保護管理協会から記念品と共に表彰状を贈呈さ

れました。この賞は、動物愛護思想の普及啓発並びに動物の適正飼養保管の推進に対する貢献が認められ表彰されたものです。

山口大学獣医学科は、2024（令和6）年に山口高等獣医学校の設置から創立80周年の記念すべき年を迎えました。山口高等獣医学校から共同獣医学部へと歩んできた道を振り返り、その軌跡を明らかにすると共に、今後のさらなる前進と飛躍を期し、記念事業を行いました。多数の方々にご参加いただき、盛会のうちに終えることがきました。当日にご参加いただいた皆様、また記念事業にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

令和6年度の山口大学ホームカミングデー@共同獣医学部は台風の影響で中止となってしまいました。令和7年度は11月8日（土）開催で、様々な企画が予定されています。遠方に住まわれている卒業生の方々も是非山口を再訪いただき、今後の獣医学教育に対するご意見を伺いたいと思っています。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

OBより

公務員の仕事と趣味について

福岡 恒（山口県庁 V62）

山口大学農学部獣医学科 62 期生の福岡恒と申します。2016年に大学卒業後、畜産県で働きたいという思いから熊本県の家畜保健衛生所で6年間（家畜保健防疫業務2年、ウイルス担当4年）勤務しました。2022年に地元山口県に戻り、山口県庁に入庁、今年で4年目になります。山口県庁でも防疫業務2年を経て、昨年4月から中部家畜保健衛生所で病性鑑定室のウイルス担当に従事しています。

ウイルス担当の主な業務内容として、ウイルスに起因する家畜疾病の検査（遺伝子検査や培養細胞を用いたウイルス分離、抗体検査）を実施しています。また、鳥インフルエンザのモニタリング検査、飼養豚や野生いのしし等を対象とした豚熱・アフリカ豚熱の検査、牛に異常産等を引き起こすアルボウイルス浸潤状況調査を実施しています。

特に行政が防疫対応に関与する鳥インフルエンザや豚熱といった特定家畜伝染病の多くはウイルス性疾病です。自分が実施した検査の結果が行政的な判断を下すための材料となるので、疑わしい症状が認められた場合は迅速かつ的確な検査・診断が求められます。大変ではありますが、平時から有事に備え、検査体制の整備・維持に取り組んでいます。公務員獣医師は型にはまった仕事が多いというイメージがあるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。ウイルス担当になってからは病性鑑定やアルボウイルス浸潤状況調査等の検査結果を踏まえて、病性鑑定実施農場の同居家畜検査や過去の検体の遡り調査を実施し、その成果を県内外の家畜保健衛生業績発表会や学会で発表することもあります。自分が獣医師として身につけたスキルが活かせる場であり、そこにやりがいを感じています。



山口県の家畜保健衛生所はほとんどの職員が獣医師で構成されており、山口大学OBも多く在籍しています。他担当の業務についても精通している方が多いので、縦割りにならずフレキシブルに所全体で業務を行っています。また、ワークライフバランスを大事にする機運も醸成されており、仕事も私生活も充実した日々を送っています。

趣味ではランニング（マラソン）をしています。幼少期から走るのには得意な方だったのですが、大学4年生からランニング（初レースは大学5年時の萩往還70kmでした）を始めたのをきっかけに年々タイムを縮め、フルマラソン自己ベストは2時間22分56秒（2023年12月）となりました。何気なく始めたランニングですが、競技志向が高くなってからは記録更新のために努力を続けています。基本は1か月で600km程度走っており、その中で疲労を抜くためのジョギング、強化メニューとしてインターバル走や距離走などに取り組むこともあります。楽しいことよりもきついことの方が多いですが、トレーニングメニューを長期的に考え、正しく努力したことが結果として結びつく時の達成感が私の走る原動力となっています。練習は家庭に影響が出ないよ

う仕事前の早朝ジョギングや週末の早朝に強度の高い練習に取り組んでいます。20代の頃と比べて疲労が抜けにくいと感じることが増えてきましたが、家族の理解もあって練習を続けられています。自己ベスト更新に向け、もう少し頑張りたいと思います。

青山会の皆様とは県内の学会や共同獣医学部の学生さんを対象とした実習で関わる機会をいただき、今後も様々な形で関わることもあるかと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

たくさんの良き縁に感謝を

とよかわ動物病院
豊川 剛 (V59)



平成24年度卒業（病理学研究室）の豊川 剛と申します。

2017年11月に山口県防府市でとよかわ動物病院を開業させていただきました。

地元は山口県柳井市なのですが、地元での開業は親の反対（近くにいると心配で、精神的に悪いとのこと）により断念し、学生時代にお世話になった不動産アルバイトの先輩から受けたご縁で防府市に開業することとなりました。学生時代に訪れていた土地とはいえ、住んでみるとわからないことだらけでしたが、地域の方々が優しく接してくださりなんとか軌道に乗ってきているのではないかと感じています。



学生時代には決して真面目ではなく、研究室の先生方や同級生、先輩後輩の方々に助けられ、無事に大学を卒業し獣医師として働き始めることができました。

国家試験では、まさか自分が1発で合格できるのは（おそらく同級生含め）思っていなかったのですが、勉強でとてもお世話になった先輩方のおかげで合格できました。その節は本当にありがとうございました。

私の人生の中で、いろいろな場面で「縁」に恵まれてきたと考えることが多く、たくさんの人に助けられ、育てられてきたと改めて思います。

自分一人ではできないことは思っている以上に多く、そういった時に頼らせていただける方達がいらっしゃることに、本当にありがたく思っております。

先に書いておくのですが、なぜかいろいろな人への感謝を挙げているような文章になってしまっています。あれもこれもと書き出さなくなってしまうのですみません。書けていないものには感謝をしていないということでは決してありませんのであしからず。

私は高校時代に勉強が嫌いで、成績も悪く、現役時代のセンター試験では4割くらいしか取れなかったくらい不真面目でした。そんな私には兄がおり、兄が予備校へ行き志望大学へ合格したことで、自分も高校を卒業したら予備校へ行って勉強すればいいと考えるくらいに阿呆な子でした。

そんな私は、結果的に大学受験で3浪（一度大学に入学したこともあるので正確には2.5浪なのですが）しているのですが、進路面で人生のターニングポイントになるであろう出会いを予備校の寮で得ます。

浪人初年度に寮に入り、そこにいた同じ高校の友人が獣医師を目指していると聞いた瞬間に、今まで何も考えずに生きてきた自分の中で大きな何か芽生えました。これが私が獣医師を目指したきっかけでした。彼との出会いがなければ私は今何をしてたのか全く想像もつきません。

こうして芽生えた瞬間から、自分でも訳がわからないくらい「獣医師になりたい」想いが、どんどん

強くなっていきましたが、高校時代遊び呆けていた自分にそんな学力があるわけもなく、そのせいで両親へは受験関係でも本当に迷惑をかけてしまいました。

そんな自分が3年かかりましたが山口大学獣医学科（現・共同獣医学部）へ合格し、夢の獣医師への第1歩を踏み出せた日のことは今も忘れられません。

合格発表を直接大学の掲示板へ見にいき、自分の受験番号を見つけ、振り返るとまさかの父親も見に来ており、男二人が涙を流しながら抱き合い喜び、近くにいた在校生の方々（ラグビー部かアメフト部だった気がします）に胴上げをされたのが嬉しくも恥ずかしかったのを覚えています。

合格後になのですが、父親になぜあそこまで挑戦することを許してくれたのか聞いた際に、「自分も昔、獣医師になりたいと思っていた時期があり、ただ理系科目がどうしても上手いかずに諦めてしまったから、その夢をお前が追ってくれているように思えて嬉しかった」と話してくれました。

私は家族が大好きで尊敬しています。父親は私の背中を押してくれて、母親は支えてくれ、兄は道を切り開いてくれ、祖父母・叔父叔母は励ましてくれ、自分は獣医師になることができ、みんな心から喜んでくれました。本当に感謝しかありません。

予備校の話へ戻るのですが、寮の寮長は、第2の父親というような存在で、寮を出た後もとてもお世話になり、昨年亡くなられるまで定期的に自宅へ遊びに行っては近況の報告や、悩み事の相談などに乗っていただいたりしていました。浪人生活で得られたものは私のなかでかけがえのないもので、第2の父親・母親（寮母さん）・恩師・共に勉強した友人など今でも関係が続いている方も多いです。

大学時代は、不動産のアルバイトでは人との話し方を学ばせていただき、動物病院でのアルバイトでは看護師の仕事や獣医師としての飼い主さんや動物への向き合い方を学ばせていただきました。どちらも今の自分には欠かせない時間だったと強く思っています。

学業の方では本当に不出来な生徒だったので、先生方や研究室含め多大なご迷惑をおかけしていましたので、大変申し訳なく思います。そんな自分でもご指導していただき、今でも覚えていただいている

先生方に本当に感謝いたしております。

卒業後は広島県福山市の動物病院で5年間勤務させていただき、素晴らしい環境のもとで勉強させていただきました。あの日々が今の自分へと確実に続いてきていると思います。不出来な私を育ててくださった元勤務先の院長のことは言葉では言い表せられないほど尊敬しており、今でも気にかけて下さったりと感謝してもしきれません。また、先輩獣医師や看護師の方々にも育てていただき、後輩獣医師からも学ばせていただくことが多かったです。

開業したての頃は、右も左もわからないような状況なこともあり、元勤務先や県内・市内の先生方に多くのことを教えていただきました。それからというもの、いろいろなことで県内のたくさんの先生方に助けられております。

まだまだ自分は未熟だ！頑張れ！と都度感じ、奮い立たされ、多くのことを学ばせていただいております。本当にありがとうございます。

本当に自分の人生はたくさんの方々との縁に恵まれています。

自分が同じように誰かの人生での良き縁となれるように、これからも獣医師として生きていければと思います。

たくさんの道がある中でこうして獣医師の仕事へ携われることが自分の人生で幸せでなりません。高校時代の自分から考えると、本当に人生どうなるかわからないものですね。

あの時こうしていればと後悔したこともあります。自分が歩んできた道に「無駄」だったと思うことはありません。人からすれば足踏みや回り道でも、私にとっては必要なものだったのだと思います。

一度きりの人生。悔やんだり辛かったりするかもしれないですが、めっちゃ楽しかった！と最後に笑えるようにしていければと思います。

これからは、第二の故郷、山口 への恩返し

岡田（延原）純子（V53）



山口大学入学を機に岡山から山口に移り住み、振り返れば、今年で26年目となりました。

小学生の頃からの夢でした獣医学にあこがれて入学したものの、ドキドキや不安でいっぱいでした親元を離れての一人暮らしを思い起こせば、あの頃はこんなに長い間山口に……それも、学生の時から長きにわたりこの吉田キャンパス周辺の平川に住み続けるとは思っていませんでした。

学生時代は薬理学研究室に所属させていただき、先生方や諸先輩方、同期の友人たちにも様々な面からたくさん助けていただきました。今思い返しますと、本当に恵まれた環境に身を置かせていただけましたので、6年間の大学生活がキラキラと宝石のような楽しき、良き思い出となっているのだと思います。

2007年に卒業後も、結婚、学生時代から一緒に過ごしたチワワと共に3人の息子の子育て、そして子供たちの成長と共に高校や専門学校での講師業や動物病院勤務に至るまでたくさんの方に支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

近年では、人と同様に動物でも予防医学が当然となったことや、学生時代に比べるとずいぶん猫の診療に関わらせていただくことが増えたと感じる今日この頃です。

どのご家庭でも、『犬も猫も家族の一員』と考えるのがスタンダードとなり、ペットフードからサプリメントまで本当に数も増え、ご家族に初めて聞く

フード名もたくさんあったりと、勉強熱心なご家族の皆さんから教えていただくことも増えてまいりました。人と比べるとギュッと詰まった動物たちの一生……我々人間と同様、食べたもので身体は作られるとも実感しながら、病気の治療は勿論ですが、健康寿命の延伸や最後まで歩ける身体づくりを目指して過ごさせていただいております。

どんな時でも私が思うこととしては、動物たちが身をもって教えてくれたことは必ず何らかの形で次の子に生かしていこう！ということです。そう思えば、これまで出会った動物たちはいつも私を成長させてくれる先生のように思えてきます。

『命には限りがあること。今のこの幸せは当たり前ではないこと』を私に教えてくれたのは、今まで一緒に過ごした愛犬たちやこれまで出会ってきた動物たち、ご家族さま、そして共に過ごす私の家族です。動物に限らず、当然ながら私自身も限られた命ですから、この先も一日一日を大切に、最後の時に後悔なきように、動物を愛する素敵なご家族にも支えられ、『日々是前進』を胸にこの先もわんちゃんや猫ちゃんと過ごしていこうと思っております。

こうして山口大学周辺に暮らしておりますと、学生時代と何ら変わっていないような気もすることもある、40代に突入しましても、まだまだ未熟な私ですが、この春には長男も大学入学の年となり、年月の流れを実感しているところです。

先日は地元の中学校にて、獣医師という職業について『職業講話』をさせていただきました。

熱心に話を聞いてくれました中学生がとてもかわいらしく、この先の未来を支える子どもたちが様々な前向きな気持ちで夢を抱けるということがとても大切なことだと私自身も改めて学ぶ機会となりました。

まだまだ少しずつですが、息子たちの成長に伴い、自分の時間も確保できるようになりましたので、これからはできることから少しずつ、獣医師以外の視点でも、この大好きな山口にて、私なりの恩返しができるかと考えております。

写真は大学時代随分とお世話になりました、頼りになる 期の集合写真です（2024年冬）

次回の同期会でも元気に皆に会えるのを楽しみに、山口大学吉田キャンパスの側にて今日も元気に過ごしております。

支部会だより

V27 同窓会 2025

青山会副会長 吉内龍策 (V27)

青山会の副会長を拝命いたしております大阪の吉内です。2024年10月26日、かめ福オンプレイスにて、卒業生や本学関係者を含む約170名が出席した山口大学獣医学科創立80周年記念式典及び祝賀会が挙行されてから、早や1年が経過しました。

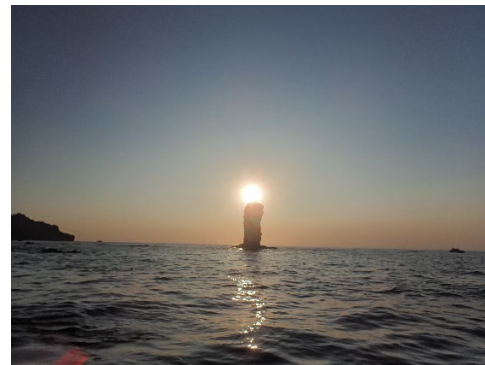
記念式典の折には、その二次会という形でV27同窓会を湯田温泉で開催し、その中で2025年のV27同窓会の話も出て、遠藤健治君の故郷である隠岐での開催が決まったのです。

本年10月11日に日本各地から同級生が集まりました。隠岐での同窓会は2度目で、同級生が隠岐出身でなければ到底あり得ない開催場所ですが、何より遠藤君の献身的なお世話があって初めて実現すると言っても過言ではなく、良き同級生に恵まれたV27一同は幸せ者の集まりに違いありません。

集合場所は隠岐の島町のシーサイドホテル岬。七類港からフェリーで来た者、空路で駆け付けた者、同級生11名と先輩2名及びその家族合わせて総勢26名となりました。14時ホテル発の観光バスで島内観光の後、遊覧船でローソク岩サンセットクルージングというのが1日目の目玉です。

自分は伊丹から隠岐空港へ。観光バスには間に合わず、ローソク島の遊覧船から合流しました。

ローソクの形をした岩の上に落陽の灯をともし位置に船頭が船を操舵してくれます。皆はスマホを掲げドンピシャのタイミングを狙うという、傍で見ると何とも微笑ましい光景が展開されたのです。



そして第1夜宴会。2次会カラオケ。3次会は戸外のベンチでひたすら呑み、気が付けば部屋の布団の上で2日目の朝を迎えていました。



第2日目はフェリーで中之島へ移動し、ホテルの船に乗り換えて隠岐島前クルージング。そのまま西ノ島のホテルへ横付けしてもらい、夕方から観光バスで夕焼けの西ノ島の絶景を観賞に行きました。

70歳を目前に控えた同級生の集まりでしたが、それぞれの人生をそれなりに謳歌している高齢者のお手本のような人たちばかりであったことが、心地よく心に残った同窓会でした。



牧野には900頭の牛と80頭の馬が放牧されているとのことで、展望台周辺にも牛馬がのんびりと草を食む姿が見られました。



お酒を飲みながら、話が青山会にも及びました。まだまだ立ち上がって間もない青山会は教員の先生方におんぶに抱っここの状況です。農学部獣医学科の同窓生の青山会への思い入れは決して強くないというのも現実です。それでも毎年、共同獣医学部の卒業生たちが青山会に入会し、いずれは山大獣医の同窓会は青山会と誰もが認識する時期がやってきます。青山会の運営に、青山会生え抜きの同窓生が主体となる時期もそう遠くはありません。その時が来るまで、「農学部獣医学科卒の自分たちが青山会の会員として協力していきたいよね！」と、今の同窓会の状況を理解してくれている同級生が多くいたことに改めて安堵したのでした。

組織的にも、会計的にも農学部同窓会とは一線を画する青山会ですが、『山大獣医』という人的な側面でその存在価値を見据えたとき、連綿と引き継がれた80年の歴史が一本の強固な軸を形作っています。多くの大学で同窓会活動が低調を極める中、山大獣医は一味違うことを発信していくことができばと思っています。

「かわいい後輩たちのためにも、爺さんたちは青山会を盛り上げていきませ〜」

編集後記

昨年は、山口大学共同獣医学科創立 80 周年記念誌発刊のため、青山会会報はお休みさせていただきました。

80 周年記念祝賀会には、私が所属していた旧家畜外科学研究室のメンバーで参加し、二次会は、V27 期の同期会にお邪魔して先輩達と盛り上がり、次の日には、山口市の旧教官 福田好晴先生のご自宅を訪問し、思い出話に花を咲かせました。さらに、今年1月には、皆で宮崎市に行き、1983年に宮崎大学に転出された旧教官 大塚宏光先生を囲んで宴を催しました。

私にとって、懐かしい旧教官や先輩・後輩と再会することができた 80 周年記念事業となりました。次回の記念事業に期待したいと思います。

(酒井, V27)

もはや季語と言っても良い、土下座の一言です。

ところで昨年度の獣医師国家試験、山口大学の合格率は 27/31 で 87.1%でした。近年は問題の難易度がかなり上がっており、かつての自分だったら果たして合格できたかどうかわかりません。次世代を担う若手たちの活躍に期待したいです。ちなみに全体の既卒者合格率は 30-40%程度を推移しています。1年目で落ちると厳しくなってくるのは昔と同じですね。(上林, V53)

山口大学共同獣医学部同窓会 青山会

事務局 (代表: 谷口 雅康)

〒753-8515 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学共同獣医学部内 ☎ 083-933-5911

E-mail; vet-doso@yamaguchi-u.ac.jp

Web; <http://seizankai.vet.yamaguchi-u.ac.jp/>